

益子家
6

御用子控

寛政十年年八月
至同十一年六月

益子信方

6



一 頭をさすふ永く保つ

一 門に古伊山を移す

一 中標をくす

一 長谷川をくす

一 長谷川をくす

一 長谷川をくす

一 長谷川をくす

一 長谷川をくす

一 長谷川をくす

一 長谷川をくす

一 早稲の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

一 田舎の地を耕す。

丁巳年

一、此本五、下五、程、初、五、子

一依若春毛並連以今言以之也

一、
十、

一 漢田孝文湯氏一

湯谷池

一、
二、
三、

一 叔由之 今吾國以多之

一、物、所、有、者、其、心、也、

新正和合吉慶福祿壽喜

一休在園中
志氣先入
多子園中

一、十、百
一、十、百

一、十、五
臨江府公署

一 小象史記

一

一、平水成金，工以公休。

一 此卷乃藏書之

[illegible]

吳江先生名果字季以

其後、
之類、

[illegible]

仁濟
子
子

一、各處下等之民，其生活極其困苦。

臨泉縣志

一丁名松

一、ち
少給ふ事な
んと改号記

二 糸 巾 子 子 子 子 子

卷之五

一、子年を以て名し

乳形房十の二五枚

一少收不多少代多勝

子長子中子每留從兄

一、國、民、大、學、生、八、十、五、萬、人、之、一、也、。

一、德聖合子孔道也

一、各級政府中，以各縣政府為最

晴窗隱居詩

蘇子瞻詩

一、此乃不知也。其意在東。

天竺國

一 是金元名臣田世安以名臣子

一、
十
三

方々々々
方々々々

一植

一、各友方内、
〇〇〇

一、筆法：筆法者，書之骨也。凡書一筆，必求其力透紙背，方為有骨。如「一」字，起筆宜重，行筆宜疾，收筆宜急，方有筆力。

一、此乃古月

一

一、凡在...
二、凡在...
三、凡在...
四、凡在...
五、凡在...
六、凡在...
七、凡在...
八、凡在...
九、凡在...
十、凡在...

一、（此處有缺字）

美善互合

事

一、生、活、結、

一、切實落手，不務虛名。

一、小、河、東、武、庫、山、寺

一、國立中央銀行設於南京

一、
重
同
方
之
病
者
知

子曰多事多患

王國女

東

蘇杭古所産也今人不知其味

之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

九月

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

一 乃其味之佳也

十月
川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 川信及東の月利は中々

一 伊予守

一 伊予守、東、西、南、北、四方、

有、し、分、市、目、元、と、年、

附、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一 伊予守、東、西、南、北、四方、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一 伊予守、東、西、南、北、四方、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

一、市、目、元、と、年、

寬政十一巳未歲

三月九日

一
訪少頃名籍人
以記定我之通
之序下玉璫

一、（一） ちんやう、（二） 市家、（三） あ

めくろふあゝ

一、安否及泣作之山、王名也

丁巳

一、同產兄弟

一蓮室

一經所求 萬幸

[illegible]

中子以反定式以在

卷之六

一
清
白
堂
上

少
日
元
初

一、少食辛辣肉

丁巳年

乃付令に親中程元細大
 形勝し後を指さる物入者し
 此後河内佐所、系諸部乳亦
 仕多するそと古如き事染
 山金白あり、然しやれり
 予由こころ新法、此は色
 子より生ずる腸等、白不
 心まゝとて多々焼く、今
 別々国産物を毛をとり力
 難む可、難信、白粒は種々
 少財品物、後手も受へん
 年くらふと、毎度少力、早
 三五年有、山部、お結、たな
 寺形、七、能作、石、後
 山、右、給、ら、何、也、一、つ、り、

少壯已

73

被名氣

三人死

海客

松浦文一君、市村八
右、通政名付、
以候、

子台

三石齋

美

今此方家、
中、
と、
如、

おれはよく海に事な

末

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

他

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

いふはよく海に事な

[illegible]

三月廿一日
 大分県立病院
 院長 佐々木 孝
 先生 佐々木 孝

[illegible]

下
石
秘
及
之
之
之

卷五

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 蓮花を食ふは身が清く

一 柳氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る
 一 氏を以て其の親戚と爲る

一 井文吉氏

一 根を以て其の親戚と爲る
 一 根を以て其の親戚と爲る
 一 根を以て其の親戚と爲る
 一 根を以て其の親戚と爲る

一 根を以て其の親戚と爲る
 一 根を以て其の親戚と爲る
 一 根を以て其の親戚と爲る

一 根を以て其の親戚と爲る

一 根を以て其の親戚と爲る
 一 根を以て其の親戚と爲る

一 根を以て其の親戚と爲る
 一 根を以て其の親戚と爲る

三十一

一 程公著書云在達河此種海
一 河以爲便而於人爲害
一 戶後
一 西以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害

同本

一 程公著書云在達河此種海
一 河以爲便而於人爲害
一 戶後
一 西以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害

一 程公著書云在達河此種海
一 河以爲便而於人爲害
一 戶後
一 西以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害

同本

一 程公著書云在達河此種海
一 河以爲便而於人爲害
一 戶後
一 西以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害
一 水以爲便而於人爲害

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一 市を渡る人々多し

一、人而不知其理，則其理之

李叔同之无挂印

唐氏夫人
 迁化于甲子年
 葬武义县
 丁未年
 日
 葬于
 武义县
 丁未年
 日
 葬于
 武义县

明倫彙編
家範典

大自
元

日教中、及て、
中法、自教、已係、
中法、自教、已係、

日下古

以爲乃足

中玉如玉子中玉如玉子中玉如玉子
中玉如玉子中玉如玉子中玉如玉子

[illegible]

一書田原に暇な中、十巻を
之に解するもの上、信實し
む十日にもおまゐる

一あふれりとははれり文
月々〇、りる事文

廿八 六月書、少く、月、
口、段、市、未、未、未、未、
中、あ、り、山、書、信、水、内、信、

神話人、
道書、

和、親、行、家、白、銀、山、氏
公、信、出、第、下、山、来、木、子
仙、居、山、信、使、信、山、川
ノ、山、山、

一市、り、り、牛、使、結、山、り、り

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一、山、山、山、山、山、山、山、山、

一 抄名も初代大正中ノ書

二 分書氏ニあるもの

一 己書中ノ申シ記ノ事ナキ

三 休ノ事ナキ氏ノ事ナキ

一 小泉多人数

一 小泉一書ノ事ナキ

二 〇〇〇

一 秋屋山ノ書ナキ

一 漢ノ事ナキ大黒ノ事ナキ

一 〇〇〇ノ事ナキ

二 〇〇ノ事ナキ

一 大田ノ事ナキ

二 〇〇ノ事ナキ

一 漢田ノ事ナキ

二 〇〇ノ事ナキ

一 豊田ノ事ナキ

二 〇〇ノ事ナキ

一 〇〇ノ事ナキ

一 〇〇ノ事ナキ

二 〇〇ノ事ナキ

三 〇〇ノ事ナキ

一 〇〇ノ事ナキ

一 〇〇ノ事ナキ

二 〇〇ノ事ナキ

一 〇〇ノ事ナキ

一 〇〇ノ事ナキ

一 〇〇ノ事ナキ

二 〇〇ノ事ナキ

三 〇〇ノ事ナキ

四 〇〇ノ事ナキ

にふえ 括分

初め未だ十歳ならずも
りては病身なる者ありて
身はたけなげなすも
如きありては知るか
けりては病身なる者ありて
りては病身なる者ありて
りては病身なる者ありて
りては病身なる者ありて

なりては病身なる者ありて

なりては病身なる者ありて

なりては病身なる者ありて

なりては病身なる者ありて

大郎は病身なる者ありて
仕りては病身なる者ありて
なりては病身なる者ありて
なりては病身なる者ありて
なりては病身なる者ありて

なりては病身なる者ありて

なりては病身なる者ありて

なりては病身なる者ありて

なりては病身なる者ありて